

# 演劇的手法やKP法、グループ学習を交え 授業の中に社会の場を作る

目黒学院高校（東京・私立）

## 藤牧 朗先生

慶應義塾大学商学部を卒業後、警視庁職員、塾講師を経て、東京大学医学部に入学。「子どもたちが社会に出て困らない力をつけさせたい」と卒業後は中学校・高校の教員に。社会科や理科をはじめ10種類の教員免許をもつ。



知識や技術の更新が速い  
現代を生きるための  
「学び続ける力」を育みたい。

### どんな授業なのか 生徒の疑問・質問を引き出す 生徒参加型の授業

「自ら学び続ける力を育てたい」。警視庁や塾での社会経験を積んだ後、東京大学医学部で学び直し、最終的に教員になった藤牧朗先生の回答は明快だ。

「変化のスピードが速い現代、医学の世界を例にとっても、数年たてば新しい薬

や治療法が出てきて、現場の対処の仕方でも変わります。ひとつとおり専門的な知識を学んでも、それはあくまで基礎知識。その上に新しい知識やスキルをどんどん積み上げていかななくてはなりません（藤牧先生・以下同）

では、学び続ける力はどう育んだらよいか。藤牧先生は第一に「学ぶことは楽しい」と感じられる授業を目指している。「インターネットの動画ではなくリアルな授業だからこそその楽しさがあるはず。人と人が交わる教室という場をうまく活用したい」

しかしながら、人によって楽しさやわかりやすさは違う。「様々な授業方法から自分に合った学び方を見つけてほしい」と、藤牧先生はあえて一般的な講義型とは異なるスタイルで、生徒が主体的に参加する授業を行う。その基本的な授業展開はこうだ（図1）。

まず、前回の授業の学びを深める冒頭の時間には、「ホットシーティング」という演劇的手法を活用。指名された生徒2人が、授業に関連する重要人物になりきって自己紹介（役の人物紹介）したり、他の生徒からの質問に答えたりする。次に、当日の授業テーマの要点について、藤牧先生がKP法（紙芝居プレゼンテーション）を使って解説。それを基

に生徒はグループで内容を掘り下げる質問を考える。各グループの質問をクラス全体で共有し、藤牧先生が回答へのヒントや情報の提供を行う。最後に、当日に学んだ内容や感想をまとめ、次

回のテーマや予習内容を確認して締めくくる。

一連の授業のなかで藤牧先生が重点を置くのは、生徒からの確かな質問を引き出すこと。良い質問ができるということは、テーマの要点を理解していることであり、それができる力は社会に出てからも役立つとの考えからだ。

「科目の知識を得ることだけが、授業の意義だとは考えていません。むしろ、科目の学習を通じて、学び続ける基礎の力として普遍的に一生使えるリテラシーやコンピテンシーを育むことを大切にしています」

定期考査には記号や穴埋めの問題がなく、すべて記述問題だ。例えば、「衆議院が参議院よりも優越する理由を記せ」と知識を問う問題のほか、「現代日本のマス・メディアの働きに対して、具体例を挙げてあなたの考えを述べよ」とのような意見を求める問題もある。

これらの採点の基準を明確化するため、設問ごとにルーブリックを作成。試験前に設問内容を伏せた形で生徒に配布する（左ページ上）。ルーブリックは評価基準を示すだけでなく、「こういう視点でものを考えてほしい」という藤牧先生のメッセージでもある。

「本来、答えは与えられるものではなく、自分たちで作るもの。世の中には正解のない問題もたくさんあるなか、自分で答えを作っていく力を育む、生徒の将来につながるテストにしたいと考えています」

図1 藤牧先生の授業デザイン

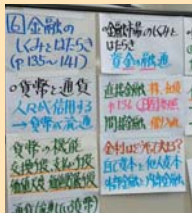
### 1 前回の復習 ～ホットシーティング

金融をテーマにした授業では、シャープ氏と日本郵便の職員の役の生徒が登場。「登場人物が自分で話すという設定なので、何を言ってもよいんだよと繰り返し伝えていきます」(10分)



### 2 教科書知識の確認 ～KP法

授業前に準備した20枚弱の用紙を使って教科書内容のポイントを解説。「板書に比べ、生徒から目を離さずすみませう」(10分)



### 3 質問精査・発表 ～グループ活動

3～4人のグループで、疑問に感じたことやさらに知りたいことについて話し合い、質問1～2点を紙に書き出して発表。「質問の良し悪しは言わず、できるだけ自由に質問を出せる雰囲気づくりに努めています」(15分)



### 4 質問回答・解説

各グループからあがった質問に答える形で、今回の授業の重要事項を解説する。すべてを解説するのではなく、「これは調べてね」と促すにとどめることも。(10分)



### 5 まとめ・感想 ～リフレクション

プリントを配布。今回の授業で学んだことを確認し、次の授業に向けて準備させる。(5分)



授業を受けた生徒の声

3学年 小岩井春岐くん

Q 今年度、初めて藤牧先生の授業を受けた感想は？

「社会科といえば暗記科目、というイメージが変わりました。考える力の大切さを改めて実感しています。自分の頭の中だけで考えるのではなく、意見として発信したり話し合ったりすることは、社会に出て役に立ちそうです」

Q 授業の面白いところはどこですか？

「最初のホットシーティングは結構面白いです。今日の授業では日本の戦後税制の生みの親ともいえるシャープ役を務めました。質問に答えられるよう事前にしっかり調べて臨みました」

Q 藤牧先生の授業を受けるようになって、自分が変わったと感じることは？

「以前はニュースを見てただその事実を受け止めていただけでしたが、今は『なぜこういうことが起こるのだろう』などと疑問が生まれるようになりました」

目的 (4点)	観望的 (2点)	要改善 (0点)	観望的 (10点)	
			観望的 (5点)	観望的 (5点)
1 授業にあつたことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
2 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
3 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
4 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
5 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
6 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
7 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
8 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
9 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
10 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
11 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
12 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
13 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
14 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている
15 観望的であったことが二点以上述べられている	観望的であったことが一つだけ述べられている	観望的でない	観望的がなく、観望的に収まっている	観望的がある、あるいは観望的に収まっている

高校3年「政治・経済」第1回定期考査ルーブリック。設問ごとに内容面3段階、表現面2段階の評価基準を設定。例えばある設問の内容面は、「目的と問題点がそれぞれ挙げられている」が4点、「目的または問題点の片方が示されている」が2点、「どちらも示されていない」が0点。

生徒はどう変わったか  
生徒が交替で教師となって授業を行った例も

授業中、生徒は積極的に手を挙げて質問する。ホットシーティングでは照れることなく登場人物になりきり、予習に基づいて真剣に演じる。グループ活動では臆することなく自分の意見を言う。「以前、希望する授業方法について生徒に聞いたところ、最も多かったのが『自分で発言できる授業』。生徒は黙って聞いているより、対話型の授業を望んでいるようです。そんな生徒の期待に応えるように。」

ようとり組んできました」

定期考査の最後には授業や試験に対する意見を求める設問もあり、その回答には「いろいろな人の考え方を吸収できる」「協調性を養うことができる」「自分で考える力がつく」など、成長を実感するコメントがあがる。また、中学3年から担当したあるクラスでは、「自分たちで授業をしたい」と、高校3年の「現代社会」の授業は生徒が交替で教師を務めたこともあった。生徒には、自ら学び続けていくためのリテラシーやコンピテンシーが確実に育っているように。

今後行いたい授業  
新しい手法も積極的に取り入れ多様な学び方を提示し続ける

藤牧先生は外部で開催される様々な勉強会に頻繁に参加して新しい授業手法を学ぶだけでなく、生徒の意見も取り入れながら授業を改善。現在のようない授業展開にたどり着いて、まだ1年足らずだ。藤牧先生はこれで授業の型を固定しようとは考えていない。「これからも生徒の状況に合わせているんな学び方を提示し、生徒の選択肢を増やしていきたいですね。そのためにも自らも新しいことを学んで、良いと思う方法があればどんどん変えていきます」